趣味倶楽部

採石場跡地にサーキット場 長年の夢が実る

山本石産 株式会社
（西三河支部支部）
代表取締役
山本　雅樹 さん

名鉄東岡崎の駅から、車で郊外に向かって走っていくと、だんだんと緑が多くなり、「幸田サーキット」の看板を目印に山に入って行くと、パッと目の前が開け、サーキットが目に入ってきました。心地よいエンジンの音をBGMに、山本石産株式会社代表取締役山本雅樹氏にお話を伺いました。

構想20年、サーキット完成

—2年ほど前にもお話を伺ったんですが、その時はまだサーキットは完成前でしたよね。

山本　そうですね、このサーキットが完成して2年ですから、その前という事になりますね。

—たいへんご無沙汰してしまって（笑）。でも、その時にお話いただいた通りのサーキットが完成して、何だか嬉しいです。

山本　このサーキットは構想20年ですからね。採石場あとはサーキットを造るという事で、周辺の皆さんや地元自治体にもアピールしてきましたから、いよいよ形になったという感じです。

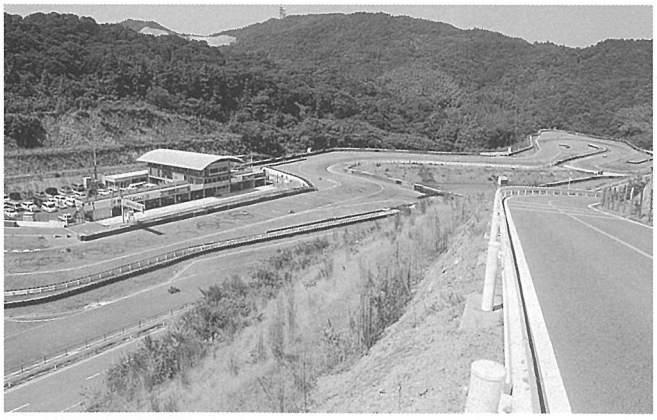
—構想20年というのは、すごく計画的な企画ですね。ご自身がレーサーの経験もあるというところからの計画なんですか？

山本　もちろんそれもあります。鈴鹿のクラブマンレースで8年、そのうち2年連連続の優勝や鈴鹿1000キロレースでクラス優勝2度の経験もして、自分自身レーサーになりたい、サーキットをつくりたいというのは夢でしたから。でも、このサーキットはビジネスとして考えていますから、理念もはっきりしています。

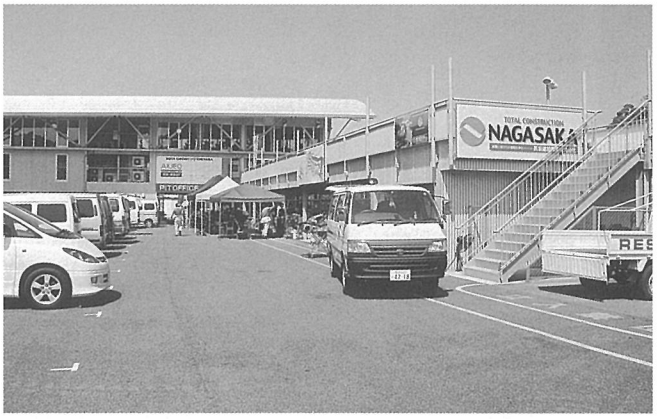
—では、理念をご紹介いただけますか？

山本　理念は4つあります。1つはルールとマナーに基づいたエキサイティングな空間の提供、2つめは環境を考え、「ものづくり」伝える教育の場、3つめは新時代の自動車の情報を幸田から世界へ、そして4つめは豊かな自然を生かして、世代を超えて楽しめる場所へ…としています。

—ビジネスとおっしゃるだけあっ



1周約1km。JAF公認サーキット場



サーキット場入口

て、非常にはっきりした理念と感じますが、具体的にはどんなことでしょうか？

山本　1つづつお話しすると、まず1つめの「ルールとマナーに基づいたエキサイティングな空間の提供」については、モータースポーツというのは、厳しいルールがあり、お互いを尊重しながら厳格なマナーを守り、激しい戦いをするスポーツですから、それを体感する空間と言うことです。うちのサーキットでは、以前に暴走族の解散式もやりました。

暴走族の解散式ですか…。

山本　これは地元の岡崎警察署からの依頼だったんですが、うちの専務が車社会のルールを話した後、ルールに添って走るという体験をしてもらいました。

—それはまさに社会貢献ですね。地元の皆さんとの絆を感じます。

山本　そういっていただくと、嬉しいです。やはり皆さんのご支援があってこそと思っていますから。

—2、4番目の理念、「ものづくり」を伝える、世代を超えて楽しめる場所、というのは、先ほどコックピットで拝見したように、親子で1台のカートのメンテナンスしたり走ったりという、世代を超えての体験、目標に向かって取り組むという姿ですね。

山本　うちでは、「親子ものづくりEVカート教室」というのも行っていて、小中学生とその親が、自分たちでカートの組み立てや分解を行い、実際に走行するという体験をしています。これは愛知工科大学の生徒さんも手伝ってもらいながら実施しています。この体験がきっかけで、親子で共通の話題ができたり、環境問題などにも興味を持ってもらえたらと思っています。

—そのほかにも初心者が体験できるコースというのもあるんですか？

山本　レンタルカートやご自身の車での体験走行などもありますので、気軽に足を運んでみてください。

—その他にはどんなサーキット利用法をお考えですか？

山本　そうですね、先日は企業の運動会もやりましたし、トヨタやホンダの新車発表会、内覧会などもやります。

—運動会ですか？

山本　コントロールルームがあり、計測も完璧ですから、マラソンや自転車レースに利用する方もあります。

—そういえば、受付のところに「ママチャリレース」の情報が掲示してありました。ママチャリって、やっぱりあの可愛らしいお買い物用自転車…ですか？

山本　そうです。結構人気があるんですよ（笑）。限られた人だけでなく老若男女を問わず、多くの方にサーキットを体験していただきたいと思っています。

コックピットにはカートの整備を行うたくさんの人がいました

日本で14番目の JAF公認サーキット

受付コーナーにはレース情報等が掲示板にズラリ

—サーキットのいろいろな利用法を伺いましたが、このサーキットはJAF（日本自動車連盟）も公認の本格的なサーキットなんですよね。

山本　はい。JAFレースコースとして公認されていて、全国でも14番目です。規模的には愛知県内では最大といわれています。

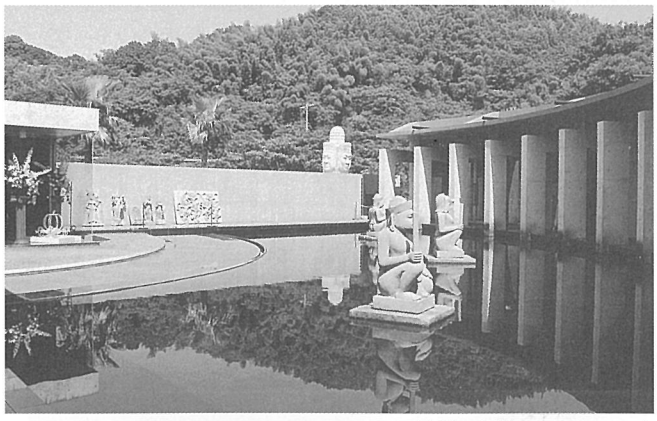
—JAF公認となると、安全性の面でも非常に工夫なさってるんでしょうか？

山本　設計は私の弟がやりました。弟も一緒にレースをしていましたから、それぞれ得意な分野を担当してこのサーキットを運営しています。もちろん安全性という面では、たいへん気を使っています。ルールを厳守してという基本を守っていても、やはりモータースポーツは危険と隣り合わせの部分がありますから、安心して皆さんに走行していただけるようにガードレールにはカバーをし、その上にスポンジも巻いてあります。

—やはり、そういった配慮がこのサーキットの魅力の一つでもありそうですね。

山本　もっともっと一般の方にもモータースポーツの楽しさを知っていただき、技術や意識の向上に役立てられたらと思っています。

なんだかワクワクするようなカートのエンジン音と共に山本社長のお話を伺っていると、モータースポーツを真剣に考えてらっしゃるのが伝わってきました。山本社長のお父様の山本勇会長は、アンコール遺跡の修復を長年ライフワークとされ、現在は吉良町に「アンコール遺跡修復山本資料館」を開設し、地元の皆さんにアンコール遺跡の紹介をなさっています。趣味といえど、その域に留まらず、社会貢献、ビジネスへと発展していく。一途に一つの道を進んでいくというのはお父様譲りなのかもしれません。今後の山本社長のご活躍をお祈りしています。今度是非サーキットでカート体験をしたいと思いながら。このインタビューを締めさせていただきます。



アンコール遺跡の展示、レストランも併設され地元の人気スポットになっている「アンコール遺跡修復山本資料館」